

厳島港港湾整備事業 (宮島口地区)

厳島港（宮島口）の概要

現状と課題

1. 栈橋

厳島港（宮島口）の栈橋は、民間の2社がそれぞれ所有し管理しています。各社の栈橋へのルートが分かりにくく、屋根が無いため雨天時の利用にも支障があり、施設の老朽化も進んでいます。

▲ 課題 観光・生活航路の維持 | 観光・生活航路の利便性向上

➡ 対策 大栈橋 (84m×30m) 整備

2. 旅客ターミナル

旅客ターミナルも民間2社によって運営されているため、初めての利用者にとっては券売所や乗り場等が別々で分かりにくく、また、待合スペースが狭いことから、混雑時には背後の歩道まで利用者が溢れ出ている状況にあります。

▲ 課題 旅客ターミナルの機能充実

➡ 対策 旅客ターミナル整備

3. 護岸

旅客ターミナル付近の護岸は、昭和38年の埋立時に整備されたものであり、老朽化が著しく、災害に対して機能が脆弱な状況にあります。

▲ 課題 観光・生活航路の維持

➡ 対策 埋立整備

4. アメニティ空間

旅客ターミナル付近には、建築物や広告・案内看板が無秩序に設置されていることから、景観や厳島（神の島）を行き交う船の眺望を阻害しているとともに、土地が狭隘であるため、海辺を散策し憩う空間が不足している状況にあります。

▲ 課題 旅客ターミナルの機能充実

➡ 対策 旅客ターミナル整備

▲ 課題 海辺の散策道、憩いの場の提供

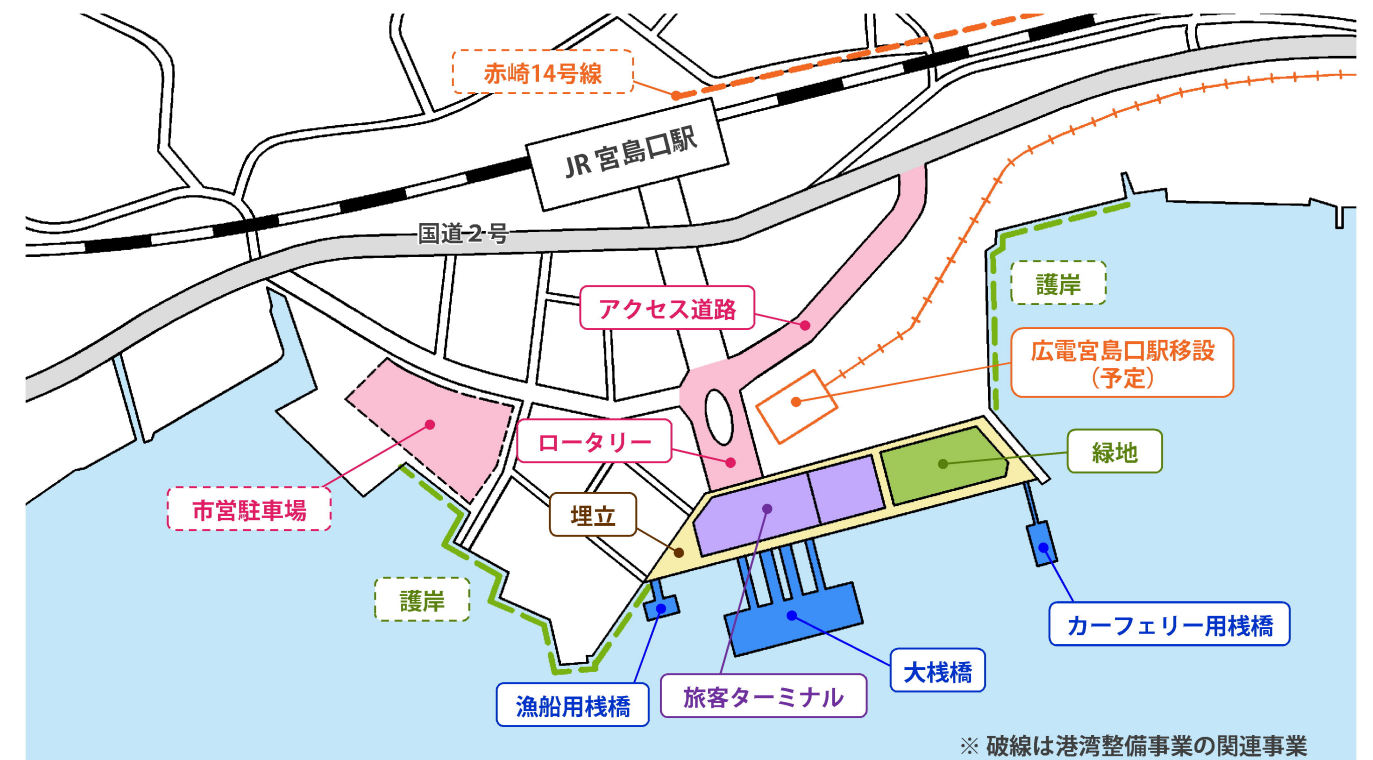
➡ 対策 護岸及び緑地整備

5. 交通渋滞

宮島口周辺には、駐車場が点在していますが、海側駐車場に利用者が集中しているため、駐車待ち車両による渋滞が発生しています。また、観光バスの一時乗降スペースがないため、旅客ターミナル前のロータリーには渋滞が発生し、国道2号にまで影響が及ぶ状況となっています。

▲ 課題 円滑な交通誘導

➡ 対策 国道2号からのアクセス道路整備



港湾整備事業（埋立工事）の概要

埋立を3工区に分割し、浮桟橋の切り替えを夜間に行うことで、フェリーの運航に影響なく工事を実施

工事着手前



第1工区完成：平成26年9月



第2工区完成：平成28年9月



旅客ターミナル等整備中：平成31年1月



第3工区完成：平成30年7月



大桟橋利用開始：平成28年12月



STEP
05

STEP
04

STEP
03

旅客ターミナル等整備

計画されている周辺の建物同士で素材感の統一や色味の調整を行うことで、新旅客ターミナル、桟橋を含めたエリア全体で「和」の空間を作り上げます。



屋根の下に小さなスペースを散在させた入れ子形式とすることで、半屋外の多い開放的な建築となります。



今後の宮島口整備の流れ

2020年春までに整備



旅客ターミナル整備

埋立地内の旅客ターミナル等を整備します。

屋根整備

大桟橋へ屋根を整備をします。

赤崎14号線整備

JR 宮島口駅北側の道路を整備します。

市営駐車場整備

市営駐車場を整備します。

2020年春以降に整備



広電 宮島口駅移設

既存施設の撤去後、広電宮島口駅の移設を実施します。

道路整備

広電 宮島口駅の移設後、アクセス道路の整備を実施します。

※ 国道2号改良を含みます。

「**厳島港宮島口地区
港湾整備事業について**」